



安心して予防接種を受けるために



予防接種名	標準的な接種月齢 ／接種開始月齢	回数	間隔	予防接種について
B型肝炎	2～9カ月未満	3回	2回目は27日以上 3回目は1回目から139日以上	B型肝炎ウイルスが感染している状態が続くと慢性肝炎になることがあり、肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。
ロタウイルス	ロタリックス (1価)	2回	27日以上	2種類のワクチンがあります。原則、同一ワクチンを接種してください。 感染力が非常に強く、激しい下痢や嘔吐を起こします。乳幼児の急性胃腸炎の中で、最も多い感染症です。
	ロタテック (5価)	3回		
小児用肺炎球菌	1回目が2～7カ月の場合	初回 3回 追加 1回	27～56日 3回接種後 7～13カ月未満	肺炎球菌は、髄膜炎、敗血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎の原因菌となります。抵抗力のない乳幼児に接種することで、免疫をつけ、重症化を防ぎます。
	1回目が7～12カ月の場合	初回 2回 追加 1回	27～56日 2回接種後 7～13カ月未満	
	1回目が12～24カ月の場合	2回	60日以上	
	1回目が24～60カ月の場合	1回		
五種混合 (ヒブ 百日咳 破傷風 ジフテリア ポリオ)	2カ月～1歳未満	初回 3回	20～56日	ヒブはインフルエンザ菌、特にb型は髄膜炎、敗血症、肺炎の原因菌となります。百日咳は乳幼児期にかかるとうつ病や脳症などの重い合併症を起こすこともあります。破傷風菌は土の中の菌が原因で筋肉の強直性けいれんを起こします。ポリオは急性灰白髄炎を予防します。感染者の1,000～2,000人のうち1人に麻痺を生じます。世界には、今でも流行している地域があります。ジフテリアの症状は、高熱、のどの痛み、犬吠様の咳、嘔吐などです。
		追加 1回	3回目終了後12～18カ月後	
BCG	5カ月～8カ月未満	1回		結核を予防します。乳幼児がかかると、髄膜炎などの重い併症を引き起こします。
MR (麻しん 風しん)	1期 1～2歳未満	1回		麻しん(はしか)は、全国的に流行することがあり、かかると重い合併症を起こすので、1歳になったらできるだけ早く接種しましょう。風しんは、母親が妊娠初期に感染すると胎児にも感染し、障害を起こす可能性があります。接種すると95%のお子さんが免疫を獲得できます。
	2期 小学校入学前の1年間※	1回		
水痘	1回目は12～15カ月	2回	6～12カ月後	重症化すると、熱性けいれん、肺炎、気管支炎を起こします。
日本脳炎	1期初回 3～4歳未満	2回	6～28日	日本脳炎ウイルスを持つブタなどの、血を吸った蚊に刺されることによって感染します。蚊が出てくる前(4～6月頃)の接種をお勧めします。人から人への感染はありません。感染してもほとんどの人は気がつかない程度で済んでしましますが、100～1,000人に1人程度は脳炎を発症します。
	1期追加 4～5歳未満	1回	1期初回終了後6カ月以上	
	2期 9～10歳 ※	1回		
二種混合 (破傷風 ジフテリア)	小学校6年生 ※	1回		破傷風は菌が土の中にあり、傷口から体内に入り感染し、けいれんを起こすことがあります。ジフテリアは飛沫感染で起こります。高熱、咽頭痛、嘔吐、犬が吠えるような咳といった症状があります。

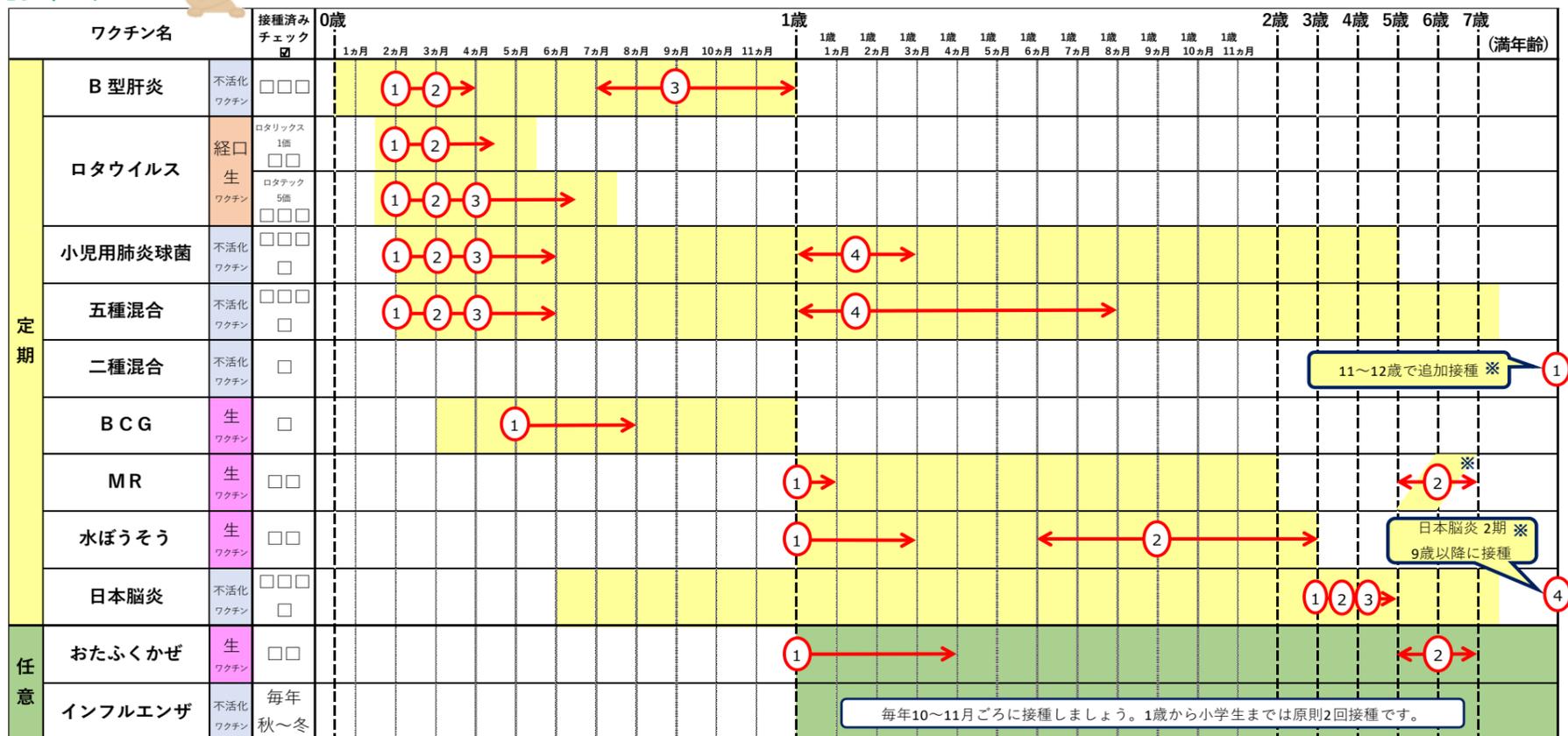
※：標準的な接種時期に個別で通知します。

★ 複数のワクチンを同時に接種することができます。特に乳児期は予防接種が多いので、かかりつけ医とご相談のうえ、スケジュールを立ててすすめてください。

★ 予防接種はお医者さんへの大切な情報です。もれのないように記入してください。

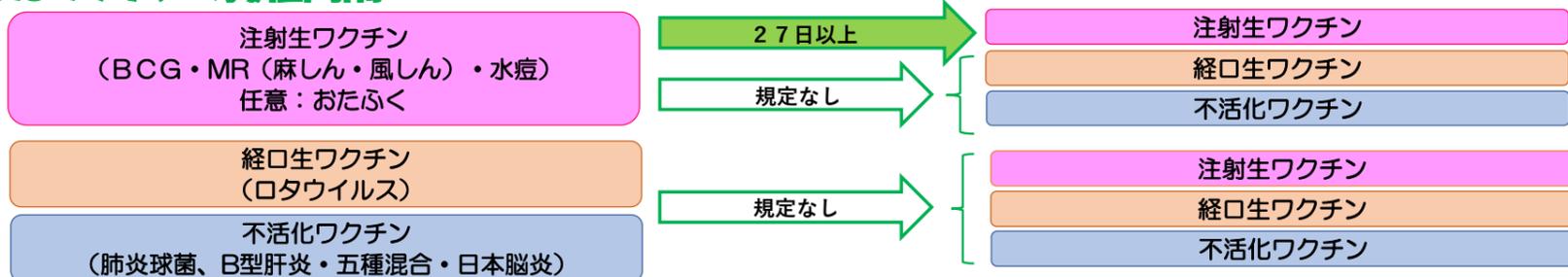
★ 定期予防接種は、原則保護者の付き添いが必要です。保護者以外の大人が付き添う場合は、「予防接種委任状」の提出が必要です。

接種カレンダー



 ：定期予防接種の対象年齢（無料で接種できる期間です。）
 ：任意予防接種の対象年齢（自己負担になります。）インフルエンザは公費助成があります。
↔：標準的な接種時期（数字は接種回数）

異なるワクチンの接種間隔



お問い合わせ・ご相談
子ども未来課 町民健康係 TEL72-3127